

年頭所感（山口経済レポート）

日本銀行下関支店長 辻 信二

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年、日本経済は一部に弱めの動きもみられましたが、緩やかに回復しました。県内でも製造業の改善や高水準の設備投資が確認されました。企業の価格設定行動は積極化しており、賃金と物価が相互に参照しながら緩やかに上昇するメカニズムは維持されています。

本年は、各国の通商政策等の影響を受けた海外経済の幾分の減速を受け、成長ペースは緩やかなものに止まるものの、その後は海外の回復とともに再び高まる見通しです。

昨年12月、日銀はこの見通しが実現する確度は高まっているため利上げを決定し、緩和度合いの調整を一段進めました。

本年も、事業の付加価値、収益性といった経営の真価が問われることとなりますが、これが、賃上げや省力化を可能にし、人手不足下での事業継続を盤石にします。県内企業の「柔軟かつ筋肉質な経営」が、本県経済を力強く発展させると確信しています。本年も宜しく申し上げます。